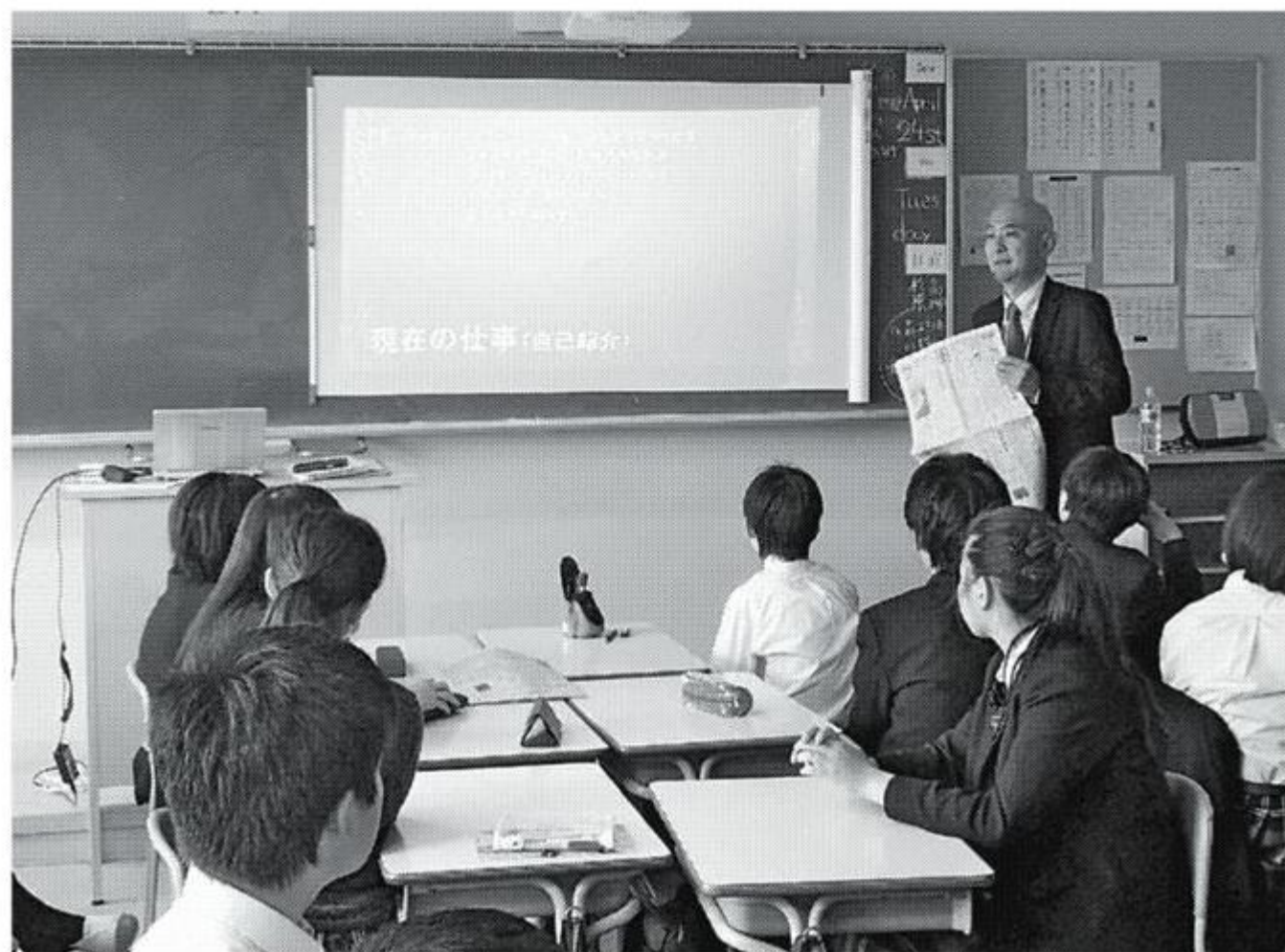


# 取材や文章の書き方学ぶ 桃山学院中学校の生徒



中学2年生3クラスが新聞を使った学習に取り組んでいる桃山学院中学校(大阪市阿倍野区)で24日、本紙編集企画室の藤浦淳・企画担当部長が「新聞ってなあに?」と題して出前授業を行い、取材や文章の書き方などについて話した。

同校では2年生が総合学習の一環で「文化研究」をテーマに、毎年授業を実施。今年度は新聞を文化と位置づけて、各クラスをグループ分け。読み方からスクラップ、討論などさまざまな角度から新聞を使って学習を深め、最終的に模擬新聞を作成することを目標にしている。

この日は藤浦部長が、新聞と資料を使って「何がニュースか?」、「取材の現場と文章の書き方」、「新聞の

使い方」を解説。写真。事件や災害現場での自らの経験や生活関連のスクラップの活用、文章を書くことに慣れる方法などについて話した。